

## インターバンクの声（2016年8月8日）

週末に発表された7月の米雇用統計は、非農業部門就業者数が25万5千人の増加となり、市場予想の18万人増を大幅に上回った。6月の就業者数も5千人ほど上方修正され、5月に極端に就業者数の伸びが減少した際に広がり始めた、米雇用情勢も遂に鈍化し始めたのではとの懸念も、この6月と7月の数字が連続して堅調となったことで、ほぼ解消されたかも知れない。この結果から再び年内の利上げ観測が高まり、ロンドン市場でいったん101円を割り込む水準まで調整が進んでいたドル/円も、雇用統計と発表後の株価の強さを確認したことで102円越えまでドルが買い戻された。ただ、ドルの反発が1円程度に留まってしまったのは、やはり前週の4-6月国内総生産(GDP)の内容があまりにも悪かったのが響いている部分もあるようだ。年内の利上げ観測が再燃したとはいえ、依然としてその確率はそれほど高くはなく、特に9月の利上げ予想は低いままだ。賃金が前月から僅かに上昇したことで、今後の個別の経済指標の内容を追い掛ける必要もありそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。